

会 報



日食協

Vol. 110 Jul. 30, 1999

目

次

新役員名簿	2
理事会・定時総会開催 基本方針、事業計画確認	3
理事会 議事録より	5月25日 3
第7回定時総会 議事録より	5月25日 5
各地支部総会開催さる	10
自分で自分の道を切り開かねば	近畿支部 11
計画を実践して行くのが我々の	関東支部 12
しまなみ海道開通して…	四国支部 14
新執行部の下に	北海道支部 16
明日につながる活動を	九州沖縄支部 19
変化に対応して行かねば	東海ブロック 22
存在感のある組織に	中国支部 24
厳しい環境の中にあって	東北支部 26
流通の国際化に備えて	北陸ブロック 27
記念講演	
超常識の発想に基づくリーダーシップと伸びる組織	
今、求められるのは自社最適システム(前半)	正田文明氏 29
事業活動	
各支部総会を反映して	運営委員会 34
「共同物流」について研究開始	物流委員会 34
今年のパイン缶詰は	CBO缶詰部会 35
神奈川県食品卸同業会 総会開催	6月21日 35
埼玉県食品卸業協会 総会開催	7月8日 35

回									
覧									

平成11年度 社団法人 日本加工食品卸協会 役員

(平成11年7月1日現在)

役員	氏名	社名・所属	役職
会長	國分勲兵衛	国分株式会社	代表取締役社長
副会長	磯野計一	株式会社明治屋	代表取締役社長
副会長	廣田正	株式会社菱食	代表取締役社長
副会長	尾崎弘	伊藤忠食品株式会社	代表取締役社長
専務理事	井岸松根	(社)日本加工食品卸協会	運営委員長
理事	竹内克之	旭食品株式会社	代表取締役社長
理事	幸村伸彦	株式会社梅澤	代表取締役社長
理事	加藤武雄	加藤産業株式会社	代表取締役社長
理事	角間俊夫	カナカン株式会社	代表取締役社長
理事	本村道生	コゲツ産業株式会社	代表取締役社長
理事	笹田傳左衛門	株式会社小網	取締役会長
理事	津久浦慶之	コンタツ株式会社	代表取締役社長
理事	中井進	株式会社祭原	代表取締役社長
理事	飯尾謙一	三友食品株式会社	相談役
理事	深澤治	株式会社サンヨー堂	代表取締役社長
理事	杉野恵二郎	杉野商事株式会社	代表取締役社長
理事	村山圭一	株式会社スハラ食品	代表取締役社長
理事	永津邦彦	株式会社トーカン	代表取締役社長
理事	中村成朗	中村角株式会社	代表取締役社長
理事	濱口吉右衛門	株式会社廣屋	代表取締役社長
理事	濱本正人	ヤマエ久野株式会社	代表取締役社長
理事	上田弘	17サ・7ナシヨク株式会社	代表取締役社長
理事	湯浅慎一郎	株式会社雪印アクセス	代表取締役社長
理事	澤田宏	株式会社渡喜	代表取締役会長
理事	標昌彦	学識経験者	
理事	市ノ瀬竹久	学識経験者	
理事	岸原稔	学識経験者	
監事	戸田覚	西野商事株式会社	代表取締役会長
監事	萩原弥重	株式会社ヤグチ	代表取締役会長
顧問	富江弘吉	伊藤忠食品株式会社	相談役

理事会・定時総会開催 基本方針、事業計画確認

5月25日（火）14時より、東京駅鉄道会館ルビーホールにおいて第6回の定時総会が開催された。それに先立って、理事会が開催されている。

事業年度の区切りをつける事に依って、諸活動の回顧と評価を客観的に共通のものとすると同時に、新たなる目標を確認するための両会議である。

特に総会には100名を越す出席者があり、各企業のトップの方がお揃いでお越しを頂いただけに緊張の度合もひとしおのものがあつた。

時系列的に言えば当日は10時より運営委員会があり、通常議題を審議する以外に理事会・総会の運営の最終確認を行った。続いて11時30分より理事会を開催し、議題内容の再確認を行い、新任理事候補の湯浅慎一郎氏と村山圭一氏の紹介が行われた。そして両氏は総会の席上で正式に理事に就任された。この二つの会議の議事録から抜粋を掲載する。

理事会 議事録より

開催日時	平成11年5月25日（火） 11：30～13：00
場 所	鉄道会館ルビーホール 11階 桂の間 東京都千代田区丸の内1-9-1
出欠状況	理事総数 26名中 出席理事20名 及び委任状出席 6名 監事総数 2名中 出席監事 2名 外 顧 問 1名 オブザーバー2名
議 案	第1号議案 定時総会提出諸議案の確認の件 第2号議案 役員を選任に関する件 第3号議案 その他



理事会に臨む正副会長



理事会 会場

議事内容 井岸専務理事の司会により開会。冒頭國分会長より次の如く挨拶があった。

國分会長挨拶

前回到引き続き、ご多忙の中、ご遠方からもご参集を頂き誠に有難うございました。

今回は総会直前の理事会であります。従いましてご挨拶は後程にさせて頂いて、早速議事進行に移らせて頂きたく存じます。

宜しくご審議下さい。

次いで、事務局より本日の出欠状況（前記）を確認後、定款の定めに従い会長が議長席に着席した。

会長より議事録署名人として、濱口吉右衛門理事及び市ノ瀬竹久理事の指名があり、議案審議に入った。

◆第1号議案 定時総会提出諸議案の確認の件

議長より、事務局からの説明が求められた。但し、前回4月20日開催の理事会における審議済みの部分は省略し、その後の動向を含めた報告との指示があった。

事務局は総会提出議案の内容は、その後異議もなく、また、変更が無い旨の報告の後、事業計画に沿っての其後の活動状況について次の如く報告があった。

(1) 定款変更研究については、事務局が農林水産省の担当官と打合せを開始し、基本部分の必要とされる部分についての確認がなされた。

基本線として、協会の名称はそのままとし、会員構成について考慮した上で、役員構成について触れ、そして対応措置としては監事2名を「同業外」から起用する事とする。

(2) 賛助会員世話人会に対して、上記「同業外」という事で、製造業である賛助会員からのご協力・ご理解を頂く件は、4月21日に開催された会合で、廣田副会長より説明し、了解快諾を頂けた。

(3) 「コンピュータ2000年問題対応の危機管理計画策定のガイドブック」は完成。ここで会員に配付の予定。

説明会（「情報システム研修会」）を7月27日（火）に行う予定。

(4) 受託事業の一つである「業種別指導講習事業」は「日食協経営実務研修会」として10月5日（火）東北支部（仙台）、10月6日（水）北海道支部（札幌）の予定。

関東支部の商品研修会は既に5月14日（金）に実施、58名参加。

その他、各地支部総会の折、外部講師を招聘したり、本部委員・事務局を講師とする研修会を予定。

(5) 酒類・加工食品データベースセンターについては、概ね順調に業務は推移、会員申込みも延べ230社に達している。

議長より、第1号議案について質疑を求めたが別に意見も無く、承認をもとめて了承された。

続いて、第2号議案について議長より、今回の理事の異動については前回に議決した通り、信田理事の逝去と森理事の退任の申出があり、後任候補は信田理事の後任は湯浅慎一郎氏、森

理事の後任は村山圭一氏であるとの説明があり、ここで森理事とオブザーバーとして本日出席しているお二方の紹介と共に、ご挨拶を頂きたいとの発言があった。

森理事より、ここで古谷(株)を退職するので辞任する旨と永年に亙って協力した思い出と、協会並びに出席者に対する謝意が述べられた。

湯浅慎一郎氏からは、前任者である故信田力正氏に寄せられた出席者からの厚意や弔意に対する謝辞と共に、総会で承認された暁には協力し、業界の発展のために尽くしたいとの挨拶があった。

村山圭一氏からは、森氏の後任という事で支部の方々の推薦を受け、理事候補にさせて頂いたが総会で承認された上は、ご指導頂き乍ら協力申し上げたいとの挨拶があった。

議長より、第2号議案について質問や意見を求めたが、異議無く了解された。

続いて、第3号議案を出席者より求めたが提起が無く、事務局に意見を求めた。

事務局は議案とは無関係であるがと、断りの上、本日出席の杉野恵二郎理事より、一年前まで理事を勤めていた杉野昭男氏が、さる4月逝去したが、その生前のご厚誼に対する謝辞を述べたいとの申出があるとの発言があり、杉野恵二郎理事より謝辞と葬儀に際しての弔意に対してのお礼の挨拶があった。

再び事務局より議事に戻り、次回定例理事会11月9日(火)開催の確認と各地区支部総会の確認がなされた。

13時に議長より、「他に意見が無くば」との発言があり、閉会となった。

第7回定時総会

議事録より



総会で挨拶をする國分勤兵衛会長



総会会場

開催日時 平成11年5月25日(火) 14:00~15:30
場 所 鉄道会館ルビーホール 12階 鳳凰の間
東京都千代田区丸の内1-9-1

出欠状況 会員総数 233名中 出席者38名 委任状に依る出席 147名 合計 185名
来 賓 農林水産省食品流通局商業課 課 長 守田 猛 殿
課長補佐 辻 隆 殿
係 長 西澤克二 殿

議 案 第1号議案 平成10年度事業報告に関する件
第2号議案 平成10年度決算報告に関する件
第3号議案 平成11年度事業計画案に関する件
第4号議案 新規加入会員・退会会員に関する件
第5号議案 平成11年度会費の額及び賦課金徴収方法に関する件
第6号議案 平成11年度収支予算案に関する件
第7号議案 役員の改選に関する件
第8号議案 その他

議事内容 井岸専務理事の司会により開会。
冒頭、國分会長と来賓代表 守田課長よりご挨拶を頂いた。

國分会長挨拶

只今ご紹介を頂きました國分でございます。日食協の総会の開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は日食協の定時総会のご案内を申し上げましたところ、皆様におかれましては、ご多忙中にも拘りませず、ご遠方からも多数お集まり頂きまして誠に有難うございます。

また、農林水産省食品流通局からも公務ご多忙な折りにも拘らず商業課 守田 課長様はじめ幹部の皆様のご出席を頂きまして、大変有難う存じます。

また、日頃からお世話になっております、賛助会員でございますメーカー様の皆様方におかれましても、こうしてお揃いでご多忙の中を多数ご出席頂いておりまして、有難くお礼を申し上げます。次第であります。

ご出席の皆様には平素から日食協に対しまして、温かいご支援ご指導を頂いております事を、高い席でございますが重ねて厚くお礼を申し上げるところでございます。

さて、今更申し上げるまでも無い事でございますが、バブルの崩壊以降の長期に亘る消費不振、流通構造の変革、そして我国全体の経済環境は、どれを取りましても戦後経験した事の無い深刻な度合いを増しつつあり、業界における自助努力はもちろんでございますが、行政当局の政策効果を期待するものでございます。

昨今は住宅関連でございますとか、情報関係等、業種によっては多少、利が生まれそれが株価にも好影響が出始めておるところでございます。従って、今一度大きな景気浮揚策を期待するものでございます。しかし反面、失業率の上昇等厳しい環境が続いているのも現実でございます。

当業界も新しい流通構造そして商慣習、それに伴う取引条件の厳しさが 있습니다。しかしその中に機能を発揮し、ローコスト経営を目指し企業体質に厚みを増しつつある企業も一部にございます。

だが、多くは従来体質の脱却に苦しんだり、ローコスト化の過程にあたり、取引条件の厳

しさに止むなく縮小均衡を考えたりの日常であって、来世紀における自社の存在に、確信の持てない企業すらあるのが偽らざる実態かと存じます。

また、情報技術の進歩でございますが、これはハード、或いはソフトに拘らず双方とも非常に早く進歩しておりまして、それによって流通技術の進歩が大きく進んでいる事は、ご承知の通りでございます。

斯かる中であって、当協会と致しましては、新しい流通構造を模索し、そこに働くべき機能を想定し、そのためのシステムの研究やコストの改善に努める他、我国の加工食品流通の有り方に相応しい社会経済機構に対する数々の提言、或いは高度情報化に不可欠なインフラ機構、例えば酒類・加工食品データベースセンターの設立等具体的作業を行って参りました。

本日は、その平成10年度のご報告と11年度の計画につきまして、皆様方にご披露を申し上げると共に、皆様方の忌憚の無いご意見を頂き、今後の活動の指針と致したく存じております。

よろしくご審議頂きまして今後とも従来に変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げたいと存じます。

以上甚だ簡単でございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうも有難うございました。

守田課長挨拶

先程ご紹介を頂きました農林水産省商業課長の守田でございます。

本日は、日本加工食品卸協会の定時総会にお招きを頂きまして有難うございます。

また、会員の皆様には、全国各地から総会にご出席ご苦勞さまでございます。

この後の総会でいろいろ報告があると思いますが、この協会では加工食品の流通の近代化ということテーマに、各種の事業を推進しておられるわけでございます。

特に私の印象に残っているところでは環境自主行動計画の策定でありますとか、或いは情報化の推進のためのデータベースの構築にかかる研究でありますとか、いちいち挙げるときりが無いのですが、ある意味では正に今の時期に必要なものを、卸売業として取り上げて推進されておるといふ事でございます。

本当に頭の下がる思いをしております。

私共農林水産省食品流通局では、食品の流通の政策を担っているわけでありましてけれども、特に最近消費者起点の流通という事で、各種の施策の組み替えをし直すといひますか、そういった事に少しづつ着手致しているわけでありまして。

特に流通の課題はいろいろありますけれども、一つはやはり情報化の推進であり、もう一つは環境問題であります。

それから、所謂ロジスティックという事で、流通自体を効率化していくということもあろうかと思ひます。



総会で挨拶をする商業課 守田 猛課長

消費者のニーズというのは、どんな調査報告をみても、非常に多様化した消費者ニーズに的確に応えながら、しかも流通としては出来るだけ効率的な流通にしていくという事が、正に課題になっているわけであります。

その為の手段としては、例えば情報化というのが非常に大きな手段であるわけですが、一般に生鮮食料品よりも加工食品の方が、取引の情報化は進んでいるわけでありますけれども、他の業界がもっともっと進んでいるのもあります。

そういう意味でこの業界でのデータベースの取り組み等大変注目し、今後どういうふうに移していくかという事について、注目を致しているところでございます。

農林水産省は今国会に食料・農業・農村の基本、昭和36年の農業基本法に代わります新しい基本法を提案致しております。

その中でも、やはり流通というのは大きな課題であります。

私共もそういう中で消費者の視点を重視したマーチャンダイジング、或いは情報化、或いはロジスティックという形で、私共として、お手伝い出来るか、十分に検討をしていきたいと思うわけであります。

最後になりましたが一つお願いがございます。

所謂コンピュータの2000年問題というのが取り上げられております。

政府としてもいろいろな分野で、2000年問題を乗り切るためにいろいろ調査をしたり、調査の結果、多少問題ありというところについては、いろいろお願いをしながら、安心して2000年の1月1日が迎えられるようにしていきたいと思うわけであります。

今までも、何回か協会を通じて調査をお願いしております。また、6月末の段階でどういふふうな対応になっているか、進み具合はどうか、残された問題点があるのか、無いのか、という事について調査をお願いしたいと思っておりますので、ひとつ宜しくお願い申し上げます。

最後に貴協会の益々のご発展と、本日ご参加の皆様方の、それぞれの会社のご発展を祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。

今日はどうも有難うございました。

引き続き出席状況報告があり、定足数を確認した。

事務局の発言で、議長は定款第20条2項により、出席会員より選出とあるが、前例に慣い会長に務めて頂きたいと思うが如何と提案。

全員賛成。國分会長が議長席に着席した。

議長が議事録署名人の決定について「一任して頂けるか」との問いに一同了承。

議長は出席者の中から 日本酒類販売株式会社殿、アライ株式会社殿を指名して議事に入った。

◆第1号議案 平成10年度事業報告案に関する件

◆第2号議案 平成10年度決算報告案に関する件

議長より平成10年度報告として、第1号議案と第2号議案を続けて事務局より報告するよう指示があり、専務理事より「定時総会提出資料 会報109号」を資料としながら、

① 計画別概況として調査研究事業、構造改善事業、教育研修事業、啓発啓蒙事業、協会本部の努力目標

- ② 総務関係として総会、理事会、正・副会長会議
- ③ 本部活動として運営委員会（賛助会員世話人会、食品卸団体連絡協議会、環境自主行動計画委員会）、食品流通委員会（センターフィ調査、卸売業の明日に向けて）、情報システム化委員会（データベースセンター概要、情報コスト、ネットワーク検討会）、流通委員会（物流コスト）、缶詰ブランドオーナー会（缶詰部会・品質対策部会）
- ④ 受託事業として生鮮食品等取引電子化基盤開発事業（加工食品専門委員会及びその小委員会活動）、業種別講習指導事業（日食協経営実務研修会）
- ⑤ 支部活動（北海道支部以下各支部別）
- ⑥ 事務局活動
- ⑦ 平成10年度収支計算書

について報告を行った。

議長はここで監事に監査報告を求めたが、戸田監事（西野商事㈱）より「4月15日萩原監事（㈱ヤグチ）と共に監査を行ったが、只今の報告の通り、帳票と残高も一致しており、適正にして且つ正確に処理していると認めました」との報告があった。

議長はここで、第1号、第2号議案の承認を求めたが、異議なく承認された。

続いて、議長より関連ある第6号議案までを一括して事務局より説明するよう指示があり、専務理事よりこれを行った。

- ◆第3号議案 平成11年度事業計画案に関する件
- ◆第4号議案 新規加入会員・退会会員に関する件
- ◆第5号議案 平成11年度会費の額及び賦課徴収方法に関する件
- ◆第6号議案 平成11年度収支予算案に関する件

第3号議案は前述の会報109号の中に記述されている事業計画案、即ち調査研究事業（中間流通業の機能と必要なシステム、諸取引契約、公正取引と公正競争）、啓発・教育研修・実践事業（環境問題対応と実践、業界データベースセンター育成と活用、インフラ整備の研究、商慣習の問題対応、コンピュータ2000年問題対応支援、災害時食料供給体制の確立）、本部活動基準（問題認識の共通、情報交換と意志疎通、協会活動のPRと情報発信、業務の合理化）を説明した。

第4号議案は、平成11年3月現在の県別・支部別会員233社、事業所会員144社、賛助会員107社、団体賛助会員3社、総計487社の確認。退会会員8社、会費未納6社、計14社。

新規加入事業所会員（㈱菱食熊本支店、㈱菱食鹿児島支店、㈱トーヨー東京支店）3社、退会事業所会員2社、退会賛助会員4社と報告を行った。

第5号議案は、会員の年間会費額は、平成11年度は平成10年度と同額にして、総会で承認された後、直ちに一年分を一括請求し、振込料各自負担にて、平成11年6月末日までに、銀行振込による方法としたい旨の説明であった。

第6号議案は、以上の各議案を前提として予算編成を行った結果、収入合計46,712,800円、支出合計60,031,000円、次期繰越は前期の繰越38,143,101円を加算し、24,824,901円の見通しが立った旨の報告があった。

ここで、議長は質疑を求め各議案毎の承認を求めたが、拍手を以て承認議決を得た。

◆第7号議案 役員改選に関する件

議長より、本年度の総会は役員改選の時期ではないが、故信田力正理事の後任と5月末にて辞任を申し出ている森 武治郎理事の後任について、先程の理事会において満場一致で、故信田力正理事の後任については、湯浅慎一郎氏(㈱雪印アクセス代表取締役社長)、森 武治郎理事の後任としては北海道支部の意向により、村山圭一氏(スハラ食品㈱代表取締役社長)を推挙するとの提起があり、満場一致で承認された。

議長は湯浅氏と村山氏に就任の意思の確認を求め、二人も承認したので、今後の協力を依頼した。

この後に退任する森理事の挨拶がなされた。



退任挨拶さるる森武治郎氏

◆第8号議案 その他

議長より皆に意見が求められたが、問題提起なくこれを以て閉会とする旨発言があり、15時30分閉会した。

各地支部総会開催さる

本部における総会が終了すると直ちに各支部の総会が順に開催される。本部事務局は総会直前の準備に忙殺されるが、休む憩間もなく総会決定事項と総会当日資料の送付作業や全国の各支部総会の準備へと追い立てられる。そして各地の支部の会員、賛助会員にご参集頂いている会場廻りが始まる。

今年も6月上旬から7月下旬にかけて開催された各地の表情をご紹介したい。



開会挨拶 尾崎弘近畿支部長



総会会場

「お忙しい中お集まり頂きまして……」明るい声の小野雅彦氏（伊藤忠食品㈱）の司会で支部総会が開催された。6月4日（金）13時よりホテルグランヴィア大阪20階 孔雀の間であった。

冒頭、尾崎支部長（伊藤忠食品㈱）は次の如く挨拶された。

「尾崎でございます。お忙しい中ご参集賜り、また本部からもご出席頂きありがとうございます。昨年この時期に前支部長の富江氏よりバトンタッチを受け、初めての総会であります。不手際がありましたならばお許し頂きたい。開会のご挨拶と申しましても、私から目下の業界情勢をお話しする迄もない事でございます。また景気不振は皆等しく不振でありますので、その事を否定するものではございませんが、自分で自分の道を切り開かねばならないと考えております。皆様におかれても充分こうした対策はお持ちの事と推察しております…(以下略)……」。



歯切れ良く司会を進める
小野雅彦氏



監査報告をする 乾 会計幹事



センターフィー問題を語る
浅井座長

この後で定足数の報告があり（54名中47名出席）支部長が議長席に就いた。

議案、第1号議案 平成10年度事業報告について、第2号議案 平成10年度収支決算について 第3号議案 平成11年度事業計画（案）について、第4号議案 平成11年度予算（案）について、第5号議案 その他

を事務局より順次報告、予算については事業案の提案がなされたりしながら各議案毎に承認され総会は閉会となった。



当日の受付にて



事務局担当 内藤氏と西木さん(伊藤忠食品株)

その後で本部報告として食品流通委員会ワーキング・グループ座長 浅井久生氏（伊藤忠食品株）と井岸専務理事より、1時間余りに亘り、当日資料を元に報告がなされ、研修の場を兼ねるところとなった。閉会は14時30分であった。

計画を実践して行くのが我々の一

—関東支部—

6月9日（水）は、鉄道会館ルビーホールにて11時30分より関東支部幹事会、13時30分より総会、引続いて15時より記念講演会が開催された。

幹事会では、総会議題の内容確認の他に各地域の状況報告がなされた。

総会は井岸関東支部常任幹事（兼）の司会で定刻開会され、冒頭磯野支部長（株明治屋）より次の如くご挨拶があった。

明治屋の磯野でございます。日食協の副会長兼情報システム化委員長兼支部長を務めさせて頂いておりますので、一言ご挨拶申し上げます。

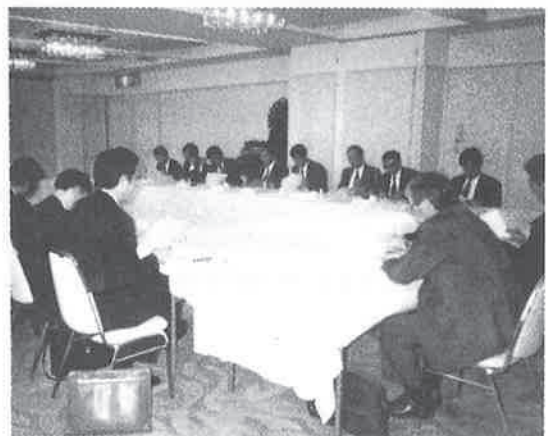
本日は、定時総会のご案内申し上げましたところ、ご多用にも拘らずご遠方からも多数ご出席を賜り誠に有難う存じます。

また、賛助会員の皆様方におかれましては、日頃いろいろなご支援ご指導を頂き、かつ本日もこうして出席下さっている事に対し、本席より厚くお礼申し上げる次第であります。

さて、日食協の事業活動も計画全般に亘り、皆様のお陰様を持ちまして滞りなく進捗致しております

去る、5月25日に定時総会が開催され、今年度事業も新たに展開を致しております。

しかし、私が申すまでもなく業界環境は誠に厳しいものがありまして、各企業におかれても目前の販路対策に追われる中で、体質改善、ローコストオペレーション化を迫られておりますし、稍長期的に見て、新しい機能の充実に追われているのが実情かと存じておるのであります。



関東支部 幹事会

この中で当協会として、協会と言う場でなければ成し得ない、事業の幾つかにチャレンジして参りましたが、幸いにも去る3月、酒類・加工食品データベースセンターの設立を見る事が出来たのは誠に同慶にたえないものがございます。

このような高度情報化時代の情報流通のインフラとして、不可欠である商品コードのデータベースセンターがまず出来たという事は、意義深いものであり、後世から見れば快挙であり、社会に貢献するところ多大な礎えの構築であった、と認識されるであろう事を考えますと、関係者のご理解とご協力下さった方々に改めて、お礼を申し上げねばならないと考えております。

幸い私も発起人の一員として、そして最後には代表という大役を頂戴して、この事業に参加出来た事は喜びであり、大きな誇りとするところでもあります。

重ねて今一度ご協力くださった各位にお礼申し上げる次第であります。

その他当協会として、そしてその一翼を担った関東支部としての事業活動は、後程事務局より説明させますのでお聞き取り賜りたく存じますが、全事業を通じて当業界のために微力ではあったが、貢献出来たのではないかと自負するものであります。

しかし、これも偏にご協力の賜物と存じてます。

今後の活動においても、本日もご列席の皆様のご支援をお願いするところでありますが、まずは本日の報告をお聞き届けの上、何かとご指導を賜りたく存じます。



支部総会で挨拶する磯野計一関東支部長（株明治屋）

各議題につきまして、充分にご審議下さいますようお願い申し上げます。

また、今年は総会に続き記念講演会を開催し、講師に疋田先生をお招きしております。

先生の情熱のこもったお話を共々伺う事によって、明日の仕事の糧になればと思います。どうぞゆっくりと拝聴して頂きたいと存じます。

本日はどうも有難うございました。

挨拶の後で、定足数確認。71名中57名出席。

司会が磯野支部長を議長に推薦。議長は議事録署名人に国分株式会社殿とコンタツ株式会社殿を指名し議事に入った。

第1号議案 平成10年度事業報告に関する件

第2号議案 平成10年度決算報告に関する件

議長より事務局に、関連ある第1号議案と第2号議案を続けて報告する様に指示、事務局は会報109号を主資料としながら、本部報告として5月25日の総会終了報告について、①酒類・加工食品データベースセンター ②環境自主行動計画 ③「卸売業の明日に向けて」 ④センターフィーの実態調査について ⑤物流コスト調査 ⑥情報コスト調査 ⑦CBO事業活動 ⑧日食協経営実務研修会 ⑨公益法人見直し政策対応のため定款変更着手。

次に支部報告として、流通業務委員会の物流コスト調査報告、返品実態調査報告、在庫回転日数調査、備車動向調査、春秋二回の商品研修会、賛助会員連絡会での研修会。百貨店共同配送委員会の現状と課題について報告をした。

収入合計3,885,396円、支出合計2,275,050円、翌期繰越1,610,346円を計上した平成10年度決算報告については、会計幹事(株)雪印アクセス、石田茂夫氏(代理 荻田邦丸氏)より4月13日に行われた監査報告がなされた。

議長はこれについて承認を求めたが拍手を以て承認された。

第3号議案 平成11年度事業計画案に関する件

第4号議案 平成11年度収支予算案に関する件

続いて議長はこれも関連ある両案として続けて事務局より報告する様に指示。事務局より調査研究事業、啓発・教育研修・実践事業、支部活動基準より成る事業計画案の説明と、収入合計3,311,846円、支出合計2,440,000円、次期繰越871,846円の予算案の説明を行った。結果両案についても異議なく承認された。

第5号議案 加入会員・退会会員に関する件

第6号議案 役員の異動に関する件

続いてこの両案も続けて説明する様、事務局に指示があり、入会は事業所会員として(株)トーホー東京支店殿があり、幹事の異動では会計監事(株)雪印アクセス 石田茂夫氏の人事異動により後任には同社の荻田邦丸氏が就任する旨の報告がありこれも承認された。

第7号議案 その他

出席者より提起がなかったが、事務局より定款変更の研究着手についての経緯と現状についての報告、この後の記念講演会の案内がなされた。

議事は以上を以て15時50分閉会した。

しまなみ海道開通して

—四国支部—

今更言うまでもないが、本四間の架橋は大きな影響そして変化をもたらしつつある。

6月15日(火)11時より高松市の香川厚生年金会館にて四国支部の役員会が開催され、当日の総会及び記念講演会の運営次第について打合せがなされた。

引続いて、12時30分より、海地日出夫氏(旭食品(株))の司会により総会が開催された。

冒頭、竹内克己支部長(旭食品(株))より次の如き挨拶が行われた。



挨拶する竹内克之 四国支部長(旭食品(株))



四国支部 総会会場

本日は第21回の四国支部総会にご参会賜わりありがとうございます。

私も5月25日、本部の理事会に出席致しました。トピック的に申上げるならば、コンピュータ2000年問題対応、酒類・加工食品データベースセンターの設立等々議題に上り原案通りにすべて承認されておりまして、この報告が後程あろうかと存じます。ご理解の上、ご協力を賜りたいと考えております。

また、本日は総会後の講演会において、本・四間三橋時代の四国経済についてお話を承る予定ではありますが、どうか、有意義な会合になりますようご協力を賜りたい。……(中略)……

世紀末といわれるが、世紀末は今迄の価値感が愈々容れられなくなる時であり、新しい価値感が生れる時でもあります。従って企業をとり巻く環境は厳しい。しかしこの厳しさから逃げてはいけないと考えます。

変革のエネルギーを活用して一気に社内も変革せねばならない。そのための研修の機会を持つべきと考えております。……(中略)……



司会進行担当 海地日出夫氏 (旭食品株)



事務局担当 渡辺国雄氏 (旭食品株)

司会の指示により、

議事に入って事務局担当の渡辺国雄氏(旭食品株)より平成10年度事業報告があり、続いて平成10年度会計報告を会計監事担当の井上一信氏(株明治屋)が行い、併せて監査報告が行われ、全員の承認を得た。

続いて平成11年度事業計画と予算について事務局担当より説明があり、これについても全員の承認があり総会議事は終了した。

この後で本部報告を井岸専務理事、食品流通委員会活動報告を同委員会ワーキング・グループ座長の大竹一太郎氏(株明治屋)が行った。

14時から記念講演会となり、講師に岡山大学経済学部 中村良平教授をお招きし「本四3橋後の四国経済」と題する講演を頂戴した。



監査報告をする 井上一信氏 (株明治屋)



当日の総会受付

同教授よりアンケート・ヒアリングに基づくデータと日頃から研究のために蒐集された数値の組合せより得た理論の説明があり、客観的な四国経済圏に出ている影響を確認する貴重な機会となった。

なお役員会において竹内支部長より、四国支部の現状から考えて支部組織のあり方について今一度本部において再考して欲しい旨の発言があった。

2年前にも竹内三賀男前支部長より、中国支部との合併という提起がなされた過去のいきさつがある問題であるが、今回の提案としては、当該支部同志の意向はともかく本部としての見解を求めるものとして新しい提起がなされた。

本部事務局としては、今後の当協会の運営組織の基本について、再確認すべき時期と考えているのでこの問題も含めて運営委員会にて検討することとした。

新執行部の下で

—北海道支部—

折しも北海道庁の外装工事が行われていた。正に梅雨のない北海道の一日。

6月17日（木）13時より札幌の京王ホテル3階の間において北海道支部総会が開催された。

司会の中川健氏（杉野商事㈱）より、会員35名の全員出席（委任状含め）の報告があり、議長には森支部長欠席のため、井本幸吉副支部長（国分㈱）を推薦したいとの発言があり、井本氏が議長席に着席した。

冒頭、森支部長が5月28日に勤務先を退職されたので本日欠席となり代理を勤めさせて頂く、との井本氏のお断りがあって開会の挨拶を行った。

平成11年度の定時総会にご多忙中にも拘わらず全道からご参集賜り誠にありがとうございます。また平素は格段のご支援、ご指導を頂いて、事業活動にご協力を頂いていることを重ねて御礼申し上げます。

加えて本部からも井岸専務理事に出席頂きこれまた御礼申し上げます。



支部長の代理で議長を勤める
井本幸吉副支部長（国分㈱）



総会・賛助会員連絡会 会場

本日は不慣れながらも議事進行役を勤めるわけだが、限られた時間内の審議でもあるのでご協力を賜りたい。

第1号議案 平成10年度事業報告と第2号議案 収支報告を議長の指示により事務局から行い、監査報告を会計監事 北村 隆氏(今井醸造㈱)が行った。結果拍手をもって承認された。

続いて第3号議案 平成11年度事業計画案 第4号議案 予算案をこれも議長の指示により続けて事務局より説明があった。これも拍手をもって承認された。

更に第5号議案 役員の改選については、今期役員全員が任期満了という事であるが、事務局案があれば説明せよ、という議長の指示があり、事務局は希望として全員留任を原則としたが、森支部長の退任があるので支部長として杉野商事(株)代表取締役社長 杉野恵二郎氏、副支部長は井本幸吉氏(国分(株)理事)の留任と、新任としてスハラ食品(株)代表取締役社長 村山圭一氏、常任幹事の新任として前川定敏氏(古谷(株)代表取締役社長)、そして宇田川悦哉氏(株菱食)、松波年明氏(株明治屋)、稲村保行氏(株北酒連)、吉田八郎氏(北海道酒類販売(株))の留任、会計監事 北村 隆氏(今井醸造(株))の留任とする案を発表。議長よりこれについて議場に諮ったところ満場拍手でこれを承認するところとなった。

第6号議案 その他として、退会会員1名の発表があり、他に提起議案もなく井本議長が閉会を宣した。



北海道の新支部長に就任した
杉野恵二郎氏(株菱食)



ワーキング・グループ報告をする
飛谷和行氏(株菱食)



挨拶する賛助会員世話人会代表
高橋俊行氏(味の素(株))

会場は引続いて賛助会員連絡会会場となり、賛助会員各位も出席され、14時より世話人会代表の高橋俊行氏(味の素(株))のご挨拶があり事業報告と計画の報告が行われた。

ご挨拶の中で高橋氏は、「昨今の官庁や金融関係の経済市況に関する発表ではやや明るさのある報告が出揃って来ているが、我々の実感としては未だ厳しさしか感じられない。厳しさの中でまだ一段と競争が激化することが予測される。と共に「デジタル時代」と「ビッグバーン」の時代が来たと考えられる。新聞ではインターネット販売の増加が著しいものがあると伝えられている。流通再編成も必須である。

我々は生配販三層が結束して行かねばならないが、かかる時、3月23日に酒類・加工食品データベースセンターが出来たという事は正に時宜を得た快挙というべきである。ここを通じ情報に関する話合いの場が持てた訳であり、協会会員の方々のご指導が頂けるものと期待をしている」と語られた。

14時20分より、会場は「日食協懇談会」の場となり、改めて本部支部の報告が詳細になされた。懇談会の開会という事で新支部長 杉野恵二郎氏(株菱食)は次の如くご挨拶された。

先刻、総会にて選任されました新支部長の杉野です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日はご多用の中多数お集まり頂き誠にありがとうございます。

さて皆様のご推挙により就任致しましたものの浅学非才の身でありますので、倍旧のご支援ご指導の程改めてお願い申し上げます。

我々中間流通業の環境は年々その厳しさを増しております。また昨今の経済状況は私から申し上げるまでもない事であります。

かかる時ですが今、正に21世紀の中間流通業のあり方が芽生えつつある大切な時であるとも考えます。特に北海道においては、人口の移動が顕著になるという予測もあり、市場がいびつになるおそれがあります。オーバーストアもあり、クロスオーバー現象もあります。かかる時、北海道の日食協支部が新しい流通秩序を模索する事は大いに意義ある事と思えます。

21世紀のあるべき流通構造と機能の姿を求め、お互いに切磋琢磨し、ローコスト化に努め、価格競争ではなく機能競争による公正競争社会を求めていくべきであります。

取引先のニーズに応え、地域社会に役立ち、環境問題にも対応できる企業でなければならないのであります。

本部の事業計画に基づき、支部として支部会員のご協力に依り、具現化して行きたいと考えますが、それにも増して賛助会員の皆様のご指導ご協力を期待するものであります。

支部活動は、ワーキング・グループが年間通じて会合活動を重ねているので、その活動報告がワーキング・グループを代表して飛谷和行氏（㈱菱食）から、①センターフィー問題の継続審議 ②市場安定化への情報交換 ③新取引条件下の問題点 の3点についてなされた。

センターフィー問題については型態も複雑化し負担料率も多様化してきたので簡単に結論を見出す事は不可能。その中でアンケート分析、中間報告の他に主要8社との情報交換を行い相互理解を深めた。今後もこうした情報交流の場は必要と考えている。

市場安定化と新取引条件の問題については、これも難問で進捗が無い中で公正取引委員会取引課 齊藤課長を招いて研修会を行い、我々だけでなく賛助会員の方にも出席して頂き、極めて有意義な機会を持つことが出来た。研修会では優越的地位乱用問題として不当廉売、返品問題、協賛金、センターフィーを取上げ、生々しい最近事例に依る説明があった後で、道内各ブロックの情報交換や活動の確認を行った。

なお、今年度の事業活動として、①センターフィー問題の継続審議 ②本部計画と連動した実践活動 ③道内各ブロック活動の活性化と交流 ④賛助会員との情報交換及び研修会の開催の4テーマを挙げ、特に本部との連動については、①道内メーカーに対する酒類・加工食品デ



会場の設営を指示する 当日の
進行役 中川 健氏（杉野商事株）



総会直前の最終打合せ
井本幸吉副支部長と事務局

ータベースセンター入会勧誘 ②ロジスティクスのインフラ整備の一端としてITFコードの普及ソースマーケティング徹底と活用の研究 ③新取引条件下における市場安定の取組みを中心的に活動する予定であると発表した。



新年度の事務局役 和田靖裕氏
(杉野商事株)

同時に賛助会員に対して、変らぬご支援ご指導をお願いして報告を終えた。

この後本部報告が井岸専務理事と食品流通委員会ワーキング・グループ座長 大竹一太郎氏（㈱明治屋）の二人より行われた。

締めくくりに入った村山新副支部長（㈱スハラ食品）は本日の出席者に対する謝辞を述べると共に、酒類・加工食品データベースセンター設立に代表される情報化時代の到来と「卸売業の明日に向けて」の中で言われている、新しい機能が求められている現実に触れ、これ等を具現化し機能を発揮するには、やはり生配販三層の協力があって実現する事であるので、今後ご協力を賜りたいと賛助会員に訴えた。

15時45分から懇親会に会場を移し、ここでも情報交換が活発になされ、内容の充実した半日の会合は17時にその全てを終了、閉会した。

閉会の挨拶に立った井本副支部長が、今一度ワーキング・グループの掲げた本年度活動方針を確認する程、最後まで熱のこもった会場であった。

明日につながる活動を

—九州沖縄支部—

むし暑い夏の訪れを告げる福岡空港、飛行機の到着が遅れて会場には時間ギリギリに間に合った。

九州沖縄支部では6月22日（火）11時より幹事会、13時より第22回定時総会、14時10分より講演会をいずれも博多全日空ホテル2階において開催した。

幹事会は定刻に山下恭輔氏（コゲツ産業株）の司会により開会。幹事会の議題は「定時総会提出議案審議」という事でまず総会出席予定者の確認、本部からの出席者紹介の後、運営次第及びその報告内容の説明、議案の内容確認が行われた。

総会は一般会員に加えて賛助会員各位にもオブザーバーとして同席して頂いたので100名を越す出席者となった。

幹事会と同様、万事ソツなく行き届いた山下恭輔氏（コゲツ産業株）の司会により、定足数の確認と会の成立報告があり、本部からの出席者の紹介がなされた。甲斐康士副支部長（ヤマエ久野株）の開会宣言に続いて、本村道生支部長（コゲツ産業株）が次の如く開会の挨拶を行った。



九州沖縄支部総会で議長を勤める
本村道生支部長（コゲツ産業株）

ご多忙の中、ご遠方からも多数お集まり頂き、感謝申し上げます。また、平素のご支援について重ねて御礼申し上げます次第。

景気が上向いたという話もあるが、個人消費については社会構造変革の先行き不透明さもあって我々の日常業務には反映されていないのは御高承の通りである。



総会会場



開会宣言 甲斐康士副支部長（ヤマエ久野株）

こうした背景の中で業界の構造変革、社会的インフラの進展、生活者の変化、そしてこれに対応する小売業がある。従って我々は日夜いろいろな課題に直面する。

これを克服するのは個々の企業の努力というのが基本ではあろうが、個々企業でなし得ないものについては当協会、また、各地域における課題については、地域においての共通課題としての取組みが必要となる。

この方向に当協会活動も志向していると思う。中央の本部において基本的課題について委員企業が取組んで頂けており、地域におけるその展開や課題は支部が取組んで行くものと考えている。

これについてはご出席下さっている賛助会員各位のご理解ご協力を必要とするものである。

特にこれからの中間流通は如何にあるべきか、そしてその担い手は、ということが明確化されてくると思うが、その意味でこうした場が明日につながる活動の場でありたい。

この後本村支部長が議長席に着席し、議事録署名人を指名してから議事に入った。

議案は第1号議案 平成10年度事業報告並びに収支決算書承認の件、第2号議案 平成11年度事業計画案並びに予算案承認の件。間で会計監査報告を巣籠勝芳会計幹事（三友食品株）が行ったがその他はいずれも事務局より説明報告があり、満場拍手でこれを承認した。



福岡地区協議会活動報告をする
土井利光氏（国分株）（左）



支部活動の一端 熊親会の報告をする
亀井創太郎氏（亀井通産株）（左）

続く第3号議案（イ）取引慣行改善に係る地域活動の実態については2地域の活動報告がなされた。

まず福岡地区協議会活動は土井利光氏（国分株）より次の如く報告があった。

毎月1回14名が集まって活動している。第1のテーマは前年度に続く「年末年始の物流体制」についてであるが、本日まで出席の賛助会員のご協力を頂き、大きく改善されているようである。特に12月31日、1月1日より1月3日の4日間以内の連休体制についてのお願いについては、小売業体制が元旦営業の方向にあったが、多くのご協力を頂いたので効果あったのではないかと考えている。



事務局兼進行役
山下恭輔氏（コゲツ産業㈱）



閉会挨拶をする
巢籠勝芳会計幹事（三友食品㈱）

第2のテーマは、数年前より手がけている「ギフトの返品」である。

百貨店と量販店について調査を行ったが、平成10年の歳暮の結果、平成11年の年初の返品が例年になく減少した。平均10%前後を記録していたが、昨年の年末商戦についての福岡地区協議会での集計では5.21%と改善された。これもメーカーとの連動の賜物であると考えている。

第3のテーマは、初めての試みであったが、流通センターフィーの実態調査を行った。運営形態の違いによって分けられるが、通過型(T.C)センターは2.5%~3.5%、在庫型は6.5%~6.7%が一般的である。今後の取組については本部と連動し、問題解決に当たって行きたい。

第4のテーマは、卸とメーカー間のオンライン発注である。オンライン発注中の3社の結果報告会を行った。今後の各社の合理化に大いに役立つものがあつた。

その他取り上げたテーマとして「単品の返品問題」、「医薬部外品の初回納入」等について情報交換や調査研究を行った。

次いで熊本県の親熊会活動について亀井創太郎氏（亀井通産㈱）より、次の如く今年度の活動を中心に報告した。

親熊会は、会員11社、賛助会員69社、合計80社で構成され、年5回の例会、年1回の総会。そして4委員会が定例的事業活動を行っている。

例会は年に1回は開催地を熊本市以外に選び、偶数月に会合を開いている。

教育研修委員会は毎回講師を招き勉強会を開催している。本年2月は高校野球の監督の方から教育の現場の話、また、4月には天草の郷土史や文化について勉強した。

リクリエーション委員会は年2回開催、春はゴルフ大会、秋は家族ぐるみのバーベキュー大会、ボーリング大会を行っている。

取引慣行を研究するのが流通問題委員会であるが、本年度はテーマを2つに絞った。「労務提供」と「返品」である。

5月にアンケートを行い、目下集計中。結果の中からアクションプランを見出す予定。

隔年毎に開催するのがフードフェア委員会が主催する「フードフェア」である。毎回他のイベントとの相乗りで企画しているのだが、今回は、熊本の農業祭との共催で今年になって6月12・13日の2日間開催した。第7回であった。新しいイベントホールを使って68社参加して頂いた。当初6,000人の集客を見込んだが、2日間で約1万人という盛況だった。新商品の案内、料理方法について情報提供し、効果が大だったと考えている。

次の議題である「(ロ)商品展示特売会の自粛継続について」は議長から、「九州地区において従来より自粛継続してきたが、何かご意見はないか」との問いかけがあったが意見なく、「先程の幹事会では継続の提案をすべき、との決議もあったので、自粛継続とする」という事に満場一致で決定した。

「その他」の意見が求められたが発言なく、第3号議案の一括承認を議長が求め、これが承認され総会は終了した。

閉会の挨拶は巢籠勝芳氏(三友食品㈱)が行った。

そして特別講演という事で、市ノ瀬竹久理事 食品流通委員長(㈱菱食)と井岸専務理事が本部の活動報告を行い、16時に全てを終了した。

変化に対応して行かねば

—東海ブロック—

地下鉄を下りたら雨が降り出した。曇り空が眼下に広がる見晴しの良い会場である。

東海北部支部 東海ブロックにおいては、6月24日(木)12時30分より名古屋観光ホテル18階において第21期定時総会を開催した。

山田将聖氏(中部飲食料新聞社)の司会により開会。

冒頭、佐藤良嶺ブロック長(㈱伊藤忠食品)より次の如く挨拶があった。



当日の議長を勤める
佐藤良嶺東海ブロック長(伊藤忠食品㈱)



総会会場

本日の定時総会にお集まり頂き感謝している。本部からもお越し頂き御礼申し上げる。

我々の業界の変化も著しいものがあり、特に大型量販店との取引の変革は厳しいものとなりつつある。この難しい課題に対応して行かねばならないのだが、日頃当協会本部では何かと対応して頂き感謝を申し上げたい。本日はその報告を承わる機会を考えている。

また、当社の本社が大阪となったので、この際東海ブロック長の職務を、当地に本社のある梅澤(株)の幸村伸彦氏にお願いしたいと考えているので後程の議事の中でお諮りしたい。

司会より議長に佐藤良嶺ブロック長を推薦する旨提案があり、全員承認し、議事に入った。

議長の指示により第1号議案 平成10年度事業報告書承認の件 について事務局より報告があり、続けて第2号議案 平成10年度収支決算書承認の件 についても報告する様指示があった。報告の後で会計監査報告を野田公明会計幹事(株大彦)に求めた。野田氏より「6月22日に監査させて頂いた結果、適法正確であった」との報告があり、ここで1号、2号議案の承認を求めたが、全員拍手でこれを承認した。

続いて第3号議案 平成11年度事業計画案承認の件 についても事務局より報告する様指示があった。



本部事業報告をする
市ノ瀬食品流通委員長(株菱食)



監査報告をする野田公明会計幹事(株大彦)

報告の後で承認され、第4号議案 平成11年度収支予算案承認の件 の報告に移った。これも全員拍手で承認された後、第5号議案 役員改選の件 について議長より平成11年度と12年度の2年間の役員案が披露された。そして原案通りに全員の承認が得られた。

従って新体制は次の如く決定した。

- | | | |
|--------|----------|-----------------------|
| 東海北陸支部 | 東海ブロック長店 | (株梅 澤(幸村伸彦氏)) |
| | 副ブロック長店 | (株トーカー(永津邦彦氏)) |
| | 会計幹事店 | 西山商事(株)(西山 茂氏) |
| | 幹事店 | 佐竹商事(株)(佐竹喜代一氏) |
| | | (株北村商店(北村博氏)) |
| | | 三重国分(株)(加藤又義氏) |
| | | 国分(株)中部支社(本橋秀夫氏) |
| | | (株明治屋 名古屋支店(横溝英明氏)) |
| | | (株菱食 名古屋支社(井村莞爾氏)) |
| | | 伊藤忠食品(株) 名古屋支社(木村英彦氏) |



事務局兼司会進行役 山田将聖氏

この後、新ブロック長 幸村氏が次の如く挨拶を行った。この度ご推薦を頂き、皆様のご承認を頂きましたので微力乍ら、また、日食協の理事を勤めさせて頂いておりますので、佐藤氏の後任を拜命致します。任期中いろいろとご支援ご指導を頂きたいと考えてるのでよろしくお願い申し上げます。

この後佐藤良嶺氏より、今後の東海ブロックご支援のお願いとこれ迄のご協力に対する謝辞が延べられ、総会議事は終了した。

この後で本部事業報告を市ノ瀬竹久理事食品流通委員長（株菱食）と井岸専務理事が行い、定刻14時30分をやや上回り閉会となった。



東海ブロック長に就任した
幸村伸彦氏のご挨拶（株梅澤）

存在感のある組織に

—中国支部—

2日続けて欠航便の出た広島空港だったが、当日は運良く予定通り到着。

中国支部では6月25日（金）12時よりホテルグランヴィア広島3階において支部総会、13時より賛助会員世話人会を開催した。

総会は梶忠雄氏（中村角株）の司会により開会。

定足数の確認、本部出席者の紹介、資料の説明があった後に中村成朗支部長（中村角株）より次の如く挨拶があった。



賛助会員連絡会で挨拶する
中村成朗支部長(中村角株)



中国支部総会会場

支部長の中村です。ご多用の中ご参集頂き感謝申し上げます。

本部総会も無事先般終了した。しかしこの環境下諸問題があり日頃日食協という立場から、いろいろと取組んできた、その諸施策が陽の目を見始め、日食協が業界において存在感のある組織になってきたのではないかと考えている。

全面的に協力してきた酒類・加工食品のデータベースセンターも設立され、会員のローコスト化に大きく貢献するものと思う。

今日はこの後の報告もお聞き届けの上、この中国支部の活動に倍旧のご支援をお願いしたい。

議事に入って第1号議案 平成10年度事業報告に関する件 と第2号議案 平成10年度決算報告書に関する件 を一括審議する旨議長より指示があり事務局が報告した。

加えて収支決算については5月20日に会計監事井上孝雄氏（国分株）の監査を受け、その報告が決算書に記載されている旨報告した。

これに対しては、異議質問なく拍手で承認。



事務局兼司会担当
梶 忠雄氏(中村角株)



賛助会員世話人会との合同研修会場

続いて議長より第3号議案 平成11年度事業計画案に関する件 と第4号議案 平成11年度収支予算案に関する件 を続けて説明する様事務局に指示、説明がなされた。

特に事業計画については、基本活動は本部事業計画に沿って行くことに変わらないが、今年度も支部活動費を各県ブロックに配分し、各地域の積極的活動を図りたいので協力してほしい旨の説明がつけ加えられた。

両案については拍手でこれを承認。その後意見なく総会を閉会した。



当日の受付で指示する梶 忠雄氏



総会開始前の和やかなひととき

この後で13時より賛助会員世話人会との合同研修会という形式で本部活動報告を9項目にまとめて井岸専務理事が行った。

定刻15時、研修会を終了した。

満席の新幹線、仙台駅でビジネスマン風の乗客はほぼ全員下車、駅前の会場に直行する。東北支部の総会は6月29日（火）10時より仙台ホテルにて開催され、11時から賛助会員連絡会が開催された。

当日は澤田 宏支部長(株渡喜)が自ら司会を兼ね定刻開会を告げ簡単な挨拶の後、定足数の確認を行った。次いで、議事録署名人として(株)サンヨー堂殿と東北国分(株)殿を指名した。



支部総会会場

議案は第1号議案 平成10年度事業報告に関する件 第2号議案 平成10年度決算報告に関する件 第3号議案 平成11年度事業計画に関する件 第4号議案 平成11年度会費の額及び賦課金徴収方法に関する件 であった。予め、一括審議とするので、事前に日食協会報109号を精読する様案内がされており、改めての説明はなかった。なお支部の平成10年度収支決算については5月19日に監事 小森田 淳氏(東北国分(株))の監査を行っており、当日は代理 西條清志氏(東北国分(株))から「調査の結果は適法正確」との報告があった。



賛助会員連絡会会場



賛助会員連絡会で挨拶する
澤田 宏支部長 (株渡喜)

また事業計画としては10月5日（火）に研修会を予定する旨の説明があった。一括審議の承認が拍手で行われ、総会は終了した。

総会終了後は支部長の指示により本日の報告の概要について井岸専務理事が事前説明を行った。

11時より賛助会員連絡会となり、本部より出席した井口泰夫情報システム化委員会ワーキング・グループ座長(国分(株))が、3月23日発足スタートした「酒類・加工食品データベースセンター」について経緯、シ



データベースセンターの報告をする
井口泰夫情報システム化委員会副委員長
(国分(株))

STEM概要、課題と順次詳細な説明を行った。その後で井岸専務理事が8項目に亘る本部事業活動報告を行った。

12時40分より懇親会に移行、盛会裡に閉会した。



当日の受付嬢 (株渡喜)
毎日お世話になっています

流通の国際化に備えて

—北陸ブロック—

折しも、「日の丸・君が代法制化公聴会」が開催され、反対派がとり巻き、警備がものものしいそのホテルのドアに入った。公聴会は3階。我々の会場は2階であった。

7月7日(水)東海北陸支部北陸ブロックの総会が12時30分よりホリディイン金沢において開催された。これに先立ち11時30分より幹事会が開催された。

幹事会においては総会の議事内容と運営次第の確認がなされた。そして本年度の事業計画の話題の中では、福岡県や千葉県における海外資本進出に対応しての当方の備えの必要性、ひいては研修会開催案が提起され総会に諮ることとなった。

また、環境問題についても情報交換がなされた。

総会は定刻より角間俊夫北陸ブロック長(カナカン株)の次の挨拶で開会された。

本日はご多忙中お集まりを頂き感謝申し上げます。

お陰様にて支部活動も平成10年度は二つの研修会を開催する等充実した内容とする事が出来たと存じます。

それにしても本部における会長店、副会長店を始めとする委員の方々の活動に対しては、自分達が果せないだけに常に感謝申し上げる次第であります。経済環境にはやっと明るさが見えてきたかの報道があり、やがて当業界も前年割れの心配をしなくて済むのかと存じております。

しかしその中でも幾多の問題が発生している様であります。

例えばコンピュータの2000年問題対応では、やはり不安を抱かざるを得ないものがありますし、何と云っても流通問題では来年2000年6月の大店舗立地法の施行に伴う問題が憂慮されるところであります。

既にかけ込みの出店申請が例年数を上回り、更に増加すると言われ、逆にそれ以降は出店が激減するのではないかと予測されております。

一方国際化の波に乗り、コストコやカルフルの出店が目立ってきましたが、いずれも卸抜きの商取引を目指しております。我々の前途に不安の影を落とすものであります。従来商慣行のままでは、諸外国より「アンフェア」の誹りを免がれないし、取引する事が難しくなってくる事が予測されます。自分達のコストを把握する事も必要です。また、物流機能と言っても



総会会場

配送するだけでは誰がやっても同じであり、リテールサポートの付加価値が不可欠になるもの
とされます。本日の本部報告はこうした意味合いにおいても大いに期待しているところです。



北陸ブロック総会で挨拶する
角間俊夫北陸ブロック長(カナカン株)



事業報告並びに収支決算報告をする
丸岡信一会計幹事(中央)(株マルシン)

角間ブロック長が議長となり議事に入って、第1号議案 平成10年度事業報告並びに収支決算報告の件 については会計監事 丸岡信一氏(株マルシン) より一括報告がなされた。

議長は監査報告を幹事(監査) 岩滝 茂氏(株明治屋) に求め、同氏の報告の後、議長は会場に承認を求めた。拍手でこれを承認。

続いて第2号議案 平成11年度事業計画並びに収支予算に関する件 については、議長より先刻の幹事会の意見の中から、しかるべくテーマを選び研修会を開催する事をこれから計画したいと提案があった。これも全員の賛同を得、これも含めた予算の承認がなされた。

以上の審議に引き続き、本部事業活動報告を井岸専務理事と食品流通委員会ワーキング・グループ座長 大竹一太郎氏(株明治屋)が行った。定刻になり、副ブロック長 澤田悦守氏(北陸中央食品株) より謝辞と閉会の挨拶がなされ、終了した。



熱心に耳を傾ける首脳部
澤田悦守氏(左)(北陸中央食品株)と
角間俊夫氏(カナカン株)



会計監査を行う丸岡会計幹事(左)(株マルシン) と
岩滝 茂会計幹事(監査)(株明治屋)

超常識の発想に基づくリーダーシップと伸びる組織

今、求められるは自社最適システム

— 関東支部 記念講演会 —

講師 疋田 文明 氏

6月9日（水）関東支部は総会の直後に記念講演会を開催した。講師はABO（疋田文明事務所）代表疋田文明氏、テーマは「……超常識の発想に基づくリーダーシップと伸びる組織……今、求められるは自社最適システム」。

出席者約100名を前に、若さ溢れる情熱のこもった疋田講師の熱弁に、1時間30分が短く感じたひとときを持つ事ができた。

新しい発想に、日常の問題打開に多くのヒントを得てこの記念講演会は16時30分終了した。

当日の内容を以下に掲載するが紙面の都合により前後二回に分ける事をお許し頂きたい。

伸びている企業には：組織のトップ

本日は伸びる企業について、いくつか事例を挙げながら、お話をしたいと思います。

伸びる企業と伸びない企業の違いは何かと聞かれると、私は「社長の違いだ」とお答えします。社長さんを含め、その組織をリードする方々の考え方一つで、成長もするし衰退もするとも言えるのではないのでしょうか。では、どういう考え方を持った人が組織する企業が伸びるのでしょうか。それは、自分がやっていることは誰が何と言おうと絶対成功するのだ、と思い込める人です。こういう人でないとなかなか仕事はうまくいきません。現場レベルで申しあげますと、商品が売れるかどうかということですが、これも組織をリードする人の考え方次第で大きく左右されるのだということをお話したいと思います。

以前、イトーヨーカ堂の鈴木社長と、どうしたら商品が売れるのかという話をしていた事があります。私が価格なのか価値なのか、いろいろ話した後に「価格論、価値論以前の

問題がある」とおっしゃっていました。それは何かというと、売れるか売れないかは当事者の意識の差だと言うのです。その時4～5年前の事例をお話されたのですが、当時生販同盟ということでメーカーさんと組んで洗剤を開発しました。これを数年前の4月27日に全国に150あるイトーヨーカ堂で一斉販売し、同じ商品を同じ価格で、同じ売り場スペースをとって売りました。ところが、売れた店と売れなかった店の格差が大きかったということです。鈴木社長に伺った数字をそのまま言いますと、一番売れた店で300、それに対し一番売れなかった店は30だったということです。10分の1ということになりますが、なぜこんなに格差がついたのか、鈴木社長は徹底的に調べさせたそうです。わかった事は、ストアマネージャーの意識の差だったそうです。売れた方は「この商品は会社が力を入れて開発した商品だから、何としても売り切るのだ。」と店長が非常に強く思っていました。その思いや情報が洗剤売り場の担当者だけではなくて、家具売り場や食品売り場、パート

さんなど皆なに伝わったわけです。情報を共有化した強みということになります。それでは売れなかった方はどうだったかというところ、「社長がなんとか売れと言っているから、しょうがないな。」というくらいの気持ちだったので、意識が低い。そのような思いでは、直接の担当者には気持ちが伝わっていても、その他の食品売り場やパートさんにまでは思いや情報は伝わりません。ですから30しか売れないという結果になったのです。今、日本の小売業で1位のグループのトップがこの話をされました。

最近、「景気が悪いから売上げが落ち、業績も伸びないのだ」とおっしゃる方が多いのですが、これは言い訳にすぎないということをお話したいと思います。

これは非常に単純な理屈であります。皆様方の会社がそれぞれ100%のマーケットシェアを持っていたら別ですが、例えばM社さんが100%のマーケットシェアを持っていれば全体が90に落ち込んだら、当然90に落ち込みます。しかし、そんな会社は絶対にはありません。他が落としても片方は伸びる可能性はたくさんあるということです。そう思って本来チャレンジするのが企業人だと申し上げたい。売れるか売れないかは皆様方の双肩にかかっているのだということをもっと一番目として挙げておきたいと思います。



講演会会場

絶えざるチャレンジ：おにぎり

2番目としては、この厳しい状況の中、伸びている企業に共通することは、一つの成功に甘んじずに絶えざるチャレンジの出来るところだということです。鈴木社長から伺ったことなのですが、商品開発を例に挙げて皆様の業界に近いお話をしたいと思います。

セブンイレブンでは1日の売上げの43%が日配の食品で、その大半が米飯だそうです。ですからセブンイレブンでは弁当やおにぎりの商品開発を一生懸命やります。ところがこの商品の売れ筋期間が実に短いのだそうです。単品商品で1日30個以上売れたらヒット商品ということなのですが、話の中では鈴木社長が例に挙げたのは、葉とうがらしのおにぎりでした。なんとこれは1日に80個以上も売れたそうです。ところがこの商品の売れ筋期間が実に短かったそうです。よく売れたのは1カ月半で、1カ月半過ぎた頃にはみるみる売れなくなってしまって、今はもう売り場にありません。鈴木社長はこのことについてどう考えるかということ、今売れている商品というのはやがて売れなくなる。売れている商品がある間に次の商品をスタンバイする。この繰り返しで売上げを作っていくわけです。結果として中にはロングに売れる商品もありますが、これは例外だと考えるわけです。そうすると、このような状況を見て、メーカーの皆さんが次から次へと商品を開発しないといけないのかと思われるかもしれませんが、その時それを苦しいと思うのか、おもしろいと思ってチャレンジするのかのどちらかになります。厳しい状況の中で伸びている企業というのは当然後者のタイプだと申し上げたいわけです。

私がちょうど1年位前にソニーの出井社長といっしょに仕事をさせていただいた時のことを少しお話したいと思います。出井社長は日本を代表する経営者ですが、しかしあの方

はサラリーマン時代、決して優遇された人ではありませんでした。その出井社長がサラリーマンの生き方の基本の話をされました。これは企業経営の基本でもあると思いますが、「サラリーマンというのは、恵まれている時に慢心するな」とおっしゃいました。恵まれていない時に悲観しないで、それぞれの状況に於いて何をなすべきかを考え、手をうっていく、これがサラリーマンの基本であるとおっしゃいました。彼はそれを実行することでソニーの社長まで登りつめたわけですから。今がいいからといって慢心だけしてはいけません。悪くなったからといって悲観ばかりしていてもいけない。それぞれの状況で次なる手をうたないと栄える組織にはなっていきません。日本の多くの企業はこれとは正反対で、いい時に慢心して何もせず、悪い時に悲観して心配ばかりしているということです。これではうまくいかないというわけです。

10年程前、日本の株価はピークを打ち、日本の多くの企業人は慢心し続けて自信満々でした。しかし今はどうでしょう、あれだけ悪かったアメリカがここまで良くなり、あれだけ良かった日本がここまで落ち込みました。これはどこに差があるのでしょうか。今はもう永遠に景気は良くなれないと言う人もいて、悲観論が横行しています。しかし、10年かかってアメリカがやったことを日本が出来ないわけがありません。企業レベルでもそのことです。ずっとチャレンジし続けてきたところは現在も業績を上げ続けています。ここで言いたいのは、単に商品開発のことだけではなく、会社の制度や人事制度についてもそういうことが言えます。今あるうちに、次のすべての分野について考えていかなければだめだということです。

知恵の集大成が：もみの木弁当

次に3番目ですが、組織をあげて知恵を出し合える企業が今伸びています。本当に知恵

比べの世の中ですから、どの業界も知恵を出した方が勝ちです。ここで申し上げたい知恵というのは難しい知恵を出すように言っているのではなく、「商売上の知恵」のことです。どうしたらもっと良い商品が出来るのか、どうしたらもっと納期を短縮できるのか、どうしたらお客様がもっと喜んでくれるのか、どうしたらもっと粗利がとれるのか等の知恵を出していただきたいということです。それはちょっとした工夫でも良いわけです。

以前、山本周五郎さんという作家の『もみの木は残った』という本が大ベストセラーになりました。この『もみの木は残った』がブームになった時、東北の駅弁屋さんで「もみの木は残った弁当」を売り出して大儲けした人がいるとのことでした。どのような弁当だったのか聞きますと、今までの駅弁（幕の内弁当）にちょっと手を加えただけで、たいして変わらないというのです。フタを開けると、ご飯の上にもみの木の葉がいっぱいになっているというのです。もみの木の葉は食べられないからご飯を食べる時にめくっていき、食べ終わる時には弁当箱の中に「もみの木は残った」ということになるのだそうです。商売の知恵というのは、そういうものなのではないでしょうか。

業界は違いますが、靴下の企画・卸をやっている「ブロードール」という会社があります。この会社の時田社長は、10数年前にアツギナイロンをやめて独立された方です。時田社長もあの手この手で靴下を売ってきました。女子高生がはいているルーズソックスの仕掛け人でもあります。以前、バレンタインに向けてハートマーク入りの靴下を販売した時社長に質問したことがあります。「バレンタインの時だけの商品なんて期間が短いから余った商品はすぐ返品されるのではないかな？社員少数の小さな会社で返品されたら死活問題ではないのか。この問題をあなたはどうかクリアされたのか？」と聞きました。「当社では

バレンタインが終わった後も値下げをせずに売り切った」と言うのです。“シール作戦”というのを実行したそうで、それはシールに「遅れてごめんね」と印刷したものを商品に貼っただけというものでした。そうしたらバレンタイン後も売れたというのです。たった一言付けるだけで商品が生まれ変わってしまいました。単純な発想に思えるかもしれませんが、彼らの「何としてでも売る」と考え抜く思いが良い知恵を生むのです。今では百貨店でもこれを真似しているところが多く、バレンタイン以外のクリスマス等にもシールの言葉を変えて使ったりしています。このシールの発想の元となったのは、時田社長自身が思い付いたアイデアではありません。時田社長の所にいる20代の女性社員が考え付いたことなのだそうです。しっかり社員を教育すればそういう社風が出来上がっていくということです。そういう社風が出来上がっているところは強いのです。では、そのような社風はどうしたら出来上がっていくのかというと、上に立つ者が部下の人に対して単純な問いかけをいつもやるということです。「こうしなさい」という指示だけでは、社員は考えなくなります。「今の配送ルートでいいのか。伝票の出し方はそれでいいのか。」とあらゆる面で問いかけをしていくことです。繰り返してやっていくことで、社風というのは出来上がっていくのだと思います。そのような社風が出来上がっている会社は、この不況の中でも勝ち残っていくことが出来るのです。

沖縄No.1のスーパー：考える社風

ここで皆様の業界に近いスーパーの話の一つご紹介したいと思います。

沖縄にサンエーというスーパーがあります。今、沖縄でNo.1のスーパーです。創業者である沖田さんが、昭和20年沖縄の宮古島で代用教員をやめて小さな雑貨屋を始めました。その後、昭和45年に沖縄本島に70坪のトタン張



講演会会場

りの店を出しました。2年後に沖縄は本土に復帰するという発表を聞き、それならば沖縄本島で店を開こうということになったのです。今、沖縄でいくらの商いをやっているかというと、小売業だけで755億です。何よりすばらしいのは、その数字の中身なのです。この2月決算の経常利益は32億円でしたが、本当は37億出せたというのです。差額の5億は決算賞与として社員に配ったというのです。もっとすばらしいことは、これだけ売り上げを取っているスーパーで、何と既存店の売り上げが対前年比2.7%伸びているのです。沖縄で失業率8.4%、あのイトーヨーカ堂でさえ既存店では対前年比3%売り上げを落としています。失業率8.4%の沖縄でこれだけ売り上げを伸ばしているのはなぜか。それは組織をあげて“考える”という社風が出来上がっているからです。10年位前に「もっといい方法がないか考えよう」という年度目標を立てたことがあります。この同じ年度目標を3年間徹底して続けたそうです。そうすると必然的に社風が育ってきて、既存店が伸びてくるのです。4年前に亡くなられた社長さんはおもしろい考えを持っていらっしゃいました。私は販売促進の仕事も手伝っていたのですが、新しい店をオープンすると私達はとかく派手なことをしようと思うのですが、その時先代社長さんが「余計なことはしない、静かなオープンが一番いい。」とおっしゃいま

した。確かに存在を知ってもらうために、チラシを配ったり、子供向けのイベントも少しはやります。しかしそれは次の年でも出来ることなのです。絶対に目玉商品を作って安く売ることにはしません。なぜかという、最初からそんなに価格破壊の数字を見せたら、お客様はいつもそういうことをやってくれると期待してしまうのです。通常そういうことばかりしていると粗利が取れなくなるから高くしてしまいがちです。そうするとお客様に見放されてしまいます。だから静かなるオープンで行こうと社長はおっしゃったのです。このお店は20年かけてじっくりお客様に支持してもらわなくてはいけないという考え方なのです。スタートした時、最初に最高の姿をお客様に見せてしまうのではなく、順番に階段を上っていったらいいのだという考え方なのです。少しずつ変えていくので、毎日がリフレッシュオープンなのです。既存店が既存店ではなく、常に新しい感覚でオープンしていく。沖縄でこういう店が育ち上がっているのだということをご理解いただきたいと思います。

売り場の作り方でも同じようなことが言えると思います。ブロードールの時田社長は靴下を例に挙げてこういうことを言っています。「靴下も野菜といっしょだ。同じ靴下を同じ売り場で同じ恰好で置いておけば腐る。」というのです。少し変わった姿を見せるためには丸めてみたり、立ててみたり、吊るしたり、プライスカードを書きかえたりして鮮度を維持していくわけです。単純なことではありませんが、組織をあげて知恵をどこまで出しきれるかということはしつこくやらないといけないということを申し上げているのです。

知恵を出し合う社風をつくるには、部下を教育する上でマニュアルはあまり良くないと思います。なぜかという、指示されたことしかやらないから、考えない人ばかり出てくるのです。例えばマクドナルドのような場合

は、徹底した価格訴求で時間を売り物にしているのですから、徹底したマニュアルでも良いと思います。しかしそれ以外は考える人間を育てようと思ったら、私は脱マニュアルの方が良いと思います。では、ディズニーランドはどうなのか。あの会社はマニュアル教育ではないのか、とおっしゃる方がいらっしゃるかもしれませんが、これはまったく違います。なぜかという、ディズニーランドには2万6000人社員がいるのですが、そのうち半分はアルバイトです。アルバイトはサービスマインドで言うとマイナスなのです。このマイナスをせめて0にもっていくまでに必要なマニュアルを作っているというわけです。これで出来るのは70%だということです。ディズニーランドが社員教育で一生懸命力を入れていることは残りの30%なのです。これはマニュアルでは絶対教えられるので、現場でマンツーマンで教え込むしかないのだそうです。ですから社員を出来る限り考えさせるようにもっていかないと、知恵を出す社風は生まれません。

「メガネのパリミキ」という眼鏡屋さんがあります。店内はいつもすいているのですが、しかしよく売れているということで業界日本一です。店の数は海外も入れて800あり、710億の売り上げで、この不景気の中82億円経常利益をとっているのです。社長さんに売り場の販売員教育でどのようなことをされているのか聞いてみたところ「マニュアルはない」とおっしゃっていました。マニュアルがあるとかえってお客様をよく見なくなってしまう、考えない人ばかりが増えてしまうからだそうです。ぜひこのあたりのことは心にとめておいていただきたいと思います。

今申し上げたきた3つの事柄が、不景気の中で伸びている企業に一般的に共通していることではないかと思います

(以下 次号)

事業活動

各支部総会を反映して

—運営委員会—

運営委員会が5月25日（火）と7月2日（金）に開催された。

特に7月2日には、井岸運営委員長が回訪中の各地の各支部総会の報告がなされた。各地方の意見を本部にフィードバックして、これからの事業活動に反映させて行こうとする中で、組織の基本に関する意見もあり、激変する環境の中で当協会の在り方についても検討せねばならぬテーマもある。

斯かるさ中に既報の如く「公益法人の見直し政策」に沿った定款変更、役員改選の準備もせねばならない。そこで討議の結果、運営委員会が管轄する「定款変更等研究会」（仮称）を結成し、10月末に意見をまとめ11月9日（火）に予定されている理事会に報告する事とした。

参加メンバーは井岸運営委員長から後日委嘱依頼する事とした。

当日の運営委員会はこの他に、「コンピュータ2000年問題」に付随して発生する恐れのある流通在庫の仮需問題、商慣行の乱れ等に対する配慮の中から、業界としての足並みをそろえて置くべき事についての検討機関を設置する事とした。本件についても食品流通委員会と事務局を中心にテーマと担当者の人選の原案を策定し、至急活動に入る事となった。

運営委員会ではこの他に退会会員の確認、酒類・加工食品データベースセンターの現状報告等がなされた。

「共同物流」について研究開始

—物流委員会—

5月26日（水）15時30分より物流委員会が開催された。今回は特に卸売業とメーカー間の物流の共同化について根底から研究しようという増井 亮 副委員長（国分嶽）の提案があり、その第1回という事で、その叩き台とも呼ぶべき構想の説明があった。

この研究のスタンスは、生活者の側から見た流通の合理化であり、社会的流通コストの低減につながるものを求めるのが基本的骨子であるとの前提となる説明があった。具体的構想はむしろこれからの検討で順次固められて行くが、最大の課題はこの事業主体は誰であるかという事になる。その過程でメーカーのメリットも卸の要望も満足させねばならないので具体的構想を練り上げる専門的ワーキング・グループの結成が望まれる。

まだ構想と呼ぶには程遠い状態の中で、まず各社の「共同物流」に対するスタンスを各自がまとめて、次回意見交換する事として散会した。

共同物流はもしそれが具現化すれば、極めて意義深いものであり、どの様な形式であれ、次のステップにつながる可能性がある事が想像できるだけに意欲的に検討を進めたい、というのが総括的大半の意見であった。

今年のバイン缶詰は…

— C B O缶詰部会 —

5月10日（月）に開催された缶詰部会において本年度の事業計画が発表されたが、その計画の第一段として、6月30日（水）15時より缶詰ブランドオーナー会缶詰部会の定例会が開催された。当日は(株)日本パインアップル缶詰協会専務理事 佐藤直樹氏にご出席頂き、塩田良英缶詰部会座長の挨拶の後、昨今のパイン缶詰の市場動向及び海外状況のお話しを頂いた。

総じて需要が260万函前後と推定できるが、輸入とのバランスが問題となる。前年は消化が早かったと思われるが、その比較では今年は遅れているのではないかと、という基調を中心に各社の動向についての報告がなされた。本年になってからの輸入量の増加因は、前年契約が3月に到着、4月5月に通関というケースに依るもの等の情報交換もあった。

当日はこのあとで全国食品缶詰公正取引協議会の報告を同会の常任理事を兼ねる井岸専務理事が行った。これは当缶詰部会会員企業は同時にこの協議会会員であり、その協議会の総会が去る5月20日（木）に行われたので、総会決議事項の連絡を行ったものである。当日の議案書と議事録を配布した。

神奈川県食品卸同業会 総会開催

— 6月21日 —

6月21日（月）16時より横浜ベイシユラトンホテル4階にて、平成11年度神奈川県食品卸同業会の総会が開催され、16時30分より賛助会員も参加して研修会が行われた。

研修会では「日食協事業活動報告」と題して井岸専務理事より「今、卸売業がやらねばならない事」を中心とする講演が行われた。参加者151名という盛況。

埼玉県食品卸業協会 総会開催

— 7月8日 —

第15回埼玉県食品卸業協会定時総会が7月8日（水）14時より大宮サンパレスにて開催された。

当日は賛助会員も含め、120名を越す盛大な総会となり、講演会、懇親会が引続き開催された。

講演会は「平成11年度の日食協の事業活動について」と題して、今卸売業がやらねばならない事として、機能の充実修得を初めとして5つのテーマについて井岸専務理事が講師役を勤めた。

